

Games Based Approach (GBA) in Practice

スコット・パイロン

カーク・アンダーソンの「ゲームを基盤にしたコーチング」(TennisPro July/August 2001) という記事は、我々に新たな指導法について考えさせるものでした。本号の Doug Eng の記事は、そういった指導法と PTR の指導法の内容を分析しています。あなたが、国際的なテニスコーチングの先端情報に関心があるのならば、この「ゲームを基盤にした指導 (GBA)」に関する多くの記事を目にしているでしょう。ITF (国際テニス連盟) は、このテーマに関するワークショップを開催し、記事を発表しています。USTA も、この内容の指導法を奨励してきています。では、その効果の程はどうなのでしょう。

この手法を理解するためには、人はどのようにして学習するのかということについて知っている必要があります。私自身の経験から言うと、生徒は自分が学んでいることを実際にプレーしたがるものなのです。体育の教師である私は、どんな年齢の生徒に対しても、これから行う運動の基礎を説明し、あまり時間をかけずにその運動を実行させることができます。技術的にはまだしっかりとしたものではありませんが、プレーを続けるうちにスキルが向上してゆくのです。多くの場合、すぐに自分できっかけを見いだすようになるのです。彼らは、その運動に関係ありそうな、投げたり受けたりとか、蹴ったりパスしたりという動作を練習したがるのです。

生徒は、戦術的・技術的に上達するヒントを積極的に求めようとします。彼らは実際にプレーをしてみて、上達に必要なことの感触をつかんできているのです。ここに、GBAの大きな要素の一端があるのです。学習する人にとって、新しい意味と価値を与えるのです。

この数年間、私自身の指導にGBAとPTRの指導法を取り入れて効果的に指導をしてきています。効果は次の3つの部分で顕著に見られます。

1. 生徒はゲームに対する理解がより深まり、より頻繁にプレーするようになっている。
2. レッソンの継続率が飛躍的に向上し、その影響で彼らの友人たちが新しく加入してきている。
3. 私のレッスン生の、市中の運動具店での用具購入が増加してきている。

テニスの指導にGBAを用いることで、生徒はすぐにラリーができるようになり、簡単なゲームもできるようになるのです。コートは小さく、ラケットも短く、ボールも扱いやすいものを使います。プレーをしながら学び、試合の仕方を理解し始めるのです。そして、最終的に技術を伸ばし、打ち方を改善してゆくのです。

年齢を問わずに、ラリーをしてダブルスをするクラスを例に考えてみましょう。あなたは、彼らにラリーの仕方を教え、PTRの指導法を使って、フォアハンドやバックハンドの打ち方を教えたが、技術的には未熟です。ある生徒は、ネットに近づいた方がポイントをとりにやすいということに気がつきます。このポジションにいと、自分の近くに来たボールを打って、ポイントをとれるのです。

対戦するプレーヤーたちからは、どうしたらこの相手に対抗できるだろうかという質問が始めるでしょう。コーチはプレーを止めて、「どうしたらこちらがポイントをとることができるだろうか？」と生徒に質問をすると、ある生徒は「ネットにいる相手にボールを打たなければいい。」とか、「ボールをもっと深く打てばいい。」とか、「ネットの相手の頭上を越せばいいのでは？」と答えるでしょう。そうしたら、コーチはロブの打ち方を教えるのです。少し練習をした後、またゲームを続けるのです。

このように、PTRの積み上げ型の指導とGBAとはすばらしい組合せになるのです。GBAを用いた指導に慣れると、あなたも生徒も技術を伸ばす機会を求めようになるのです。私は、生徒に質問をさせ、向上の機会を求めさせるようにします。レベルに合わせた指導をするわけですが、「コーチがすべてを仕切る」のではなく、生徒が「助けを求める」環境を作れば、学習効果はよりしっかりとしたものになります。

初心者のクラスで、フォアハンドの打ち方を教えるとします。生徒を並ばせて、球出しのレッスンをします。そして、フォアハンドを使ったドリルをして、レッスンを終えます。このクラスで「燃える」生徒はどのくらいいるのでしょうか。それに対し、PTRの指導法で打ち方を教えたなら、すぐにラリーをさせる方法をとります。新しく開発された“スピードボール”を使えば、彼らは、普通にラリーができるでしょう。そして、短いボールや深いボールに対応するといったGBAの指導を行うのです。そして、ミニテニスで、最初のレッスンのうちにスコアの数え方を教えるのです。このグループの「燃え方」はどう思いますか。

去年、私は多くのGBAのレッスンを行いました。そして、その効果を幾度と無く目の当たりにしてきました。ある日、たまたまテニスコートの近くを通りかかったら、その日の朝私のレッスンを受けたばかりの子供がお父さんとテニスをしているのを見かけました。また、レッスンが終わって間もなく、生徒から、「ラケットはどんなものをどこで買ったらいいか。」といった問い合わせの電話がありました。おそらく、レッスンに持ってきた古いラケットで近所の人とテニスをする気にならなかったのでしょう。

最初の数週間は生徒の打ち方は綺麗なものではありませんが、皆、とても興奮し、非常に高い学習意欲があります。何年も練習を重ね、ほぼ完璧な打ち方をするプレーヤーが、お世辞にも上手いとはいえない打ち方のプレーヤーにしてやられたときの悔しさはないでしょう。生徒のストロークは、時間が経過すれば良くなっていくのです。

昨年、3～4年生を対象としたUSAチームテニスで、ある対戦チームのコーチと私で試合の様子を眺めていた時のことです。激しいラリーの応酬の最中に、私のチームの選手が「二人とも片方に寄せよう。」と叫んだのです。その後数本のラリーが続いたところで、もう一人が「空いたところを狙って打って。」と大声で叫んだのです。そのポイントが終わったとき、そのコーチが私に聞いたのです。「何であんな事を知っているんだ。」と。私の答えはこうでした。「彼は、ゲーム主体の練習をして、レッスンの最初からテニスをしてきているからですよ。さっきの女の子はまだテニスを始めて数週間ですが、ゲームに沢山勝って、楽しんでますよ。」

PTRの指導法とGBAとを組み合わせれば、指導者としての更なる成功に繋がります。私自身そうすることでテニスをより簡単に普及させることができたし、生徒数も増え、継続率も上がっています。是非トライしてみてください。きっと驚きますよ。

【注】GBAに関する情報は下記で入手可能です。

* I T F (www.itftennis.com) :

“ Mini Tennis ” Miguel Miranda in “ Coaching and Sports Science Review ” (vol.26)

* ヒューマンキネティック (www.humankinetic.com) :

“ Coaching Youth Tennis -3rd. Edition” (本)

“ Games Approach to Coaching Tennis ” (ビデオ)

【筆者紹介】 マサチューセッツ州在住。PTR認定プロ。体育教師。USTAのNATIONAL DEVELOPMENT COACHであり、PTRとUSTA双方で講演を行っている。また、TENNISPROにも数多く寄稿。

【翻訳・監修】 鈴木真一 *PTRナショナルスター/ナショナルスター委員会委員/千葉県柏市 7th・イン桜テニスクラブ代表